

## 北海道増毛高等学校

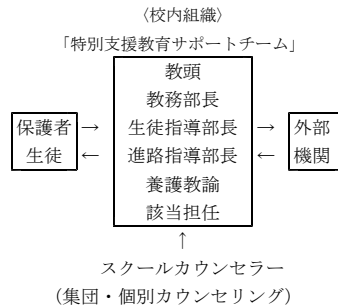
課程	全日制
学科	普通科
生徒数	24名

### 1 事業のねらい

本校では、かねてより、中学時代に不登校経験のあった生徒が入学してきており、不登校や中途退学の未然防止が課題となっていた。そこで、平成19年度より不登校や中途退学等の未然防止の取組として、教育相談体制の充実とコミュニケーションスキルの向上を図ることを目的とした「心の教育」を推進してきた。平成22年度は、ボランティア活動や生徒会活動、他校との交流を通してコミュニケーションスキルを生かした取組の充実を図るとともに、これまで実施してきた内容を体系化し、取組の一層の推進と拡充を図ることとした。

### 2 取組の経過

- 平成19年度  
校内組織、教育相談体制の確立
- 平成20年度～平成22年度  
「心の教育」
  - 講演会
  - テレビ会議システムによる集団カウンセリング
  - 放課後テレビ交流
  - 抑うつ尺度、主張性尺度調査
  - 校内研修
- 平成22年度  
「心の教育」
  - テレビ会議システムによる個別カウンセリング
  - ボランティア活動、他校生との交流



### 3 主な取組の内容

- 講演会、校内研修、担任との懇談  
平成20年度、21年度で実施してきた集団カウンセリングの振り返りを行い、内容の定着と伸長を図ることを目的に、コミュニケーションスキル育成コーディネーター（スクールカウンセラー）による講演を行った。  
講演会には職員も同席し、発達段階に応じて獲得すべきスキル目標などについての理解を深めた。  
また、講演会終了後に、担任とクラスの状態について懇談を行い、今後の指導や対応方法について助言をいただいた。



- 抑うつ尺度・主張性尺度調査  
対人関係スキル及びうつ・無気力に関する調査を、平成20年度から継続して実施し、調査結果から生徒の変容や「心の教育」の効果を検証した。  
調査項目の設定とデータの分析はコミュニケーションスキル育成コーディネーターにより行われ、調査結果は個人面談等を通して生徒へ説明した。
- テレビ会議システムによる個別カウンセリング  
生徒からの希望などに応じて、コミュニケーションスキル育成コーディネーターによる、テレビ会議システムを利用した個別の遠隔カウンセリングを実施した。  
個別カウンセリングは一人当たり約30分行われ、終了後は、コミュニケーションスキル育成コーディネーターから教員に、生徒の状況や指導・対応方法について助言をいただいた。
- ボランティア活動・他校生との交流  
これまでに学んできたコミュニケーションスキルを実践する場として、町内の保育所の訪問、町の行事への運営協力、町内幼稚園・小中学校合同での清掃活動など多くのボランティア活動に取り組んだ。  
また、今年度で閉校する愛別高校の生徒や北海道医療大学の学生と合同体育大会を開催した。初対面である高校生・大学生の混合チームではあったが、上手に交流を図り協力して競技に取り組む姿が見られるなど、コミュニケーションスキルの向上の成果を確認する、とても良い機会となった。



合同体育大会



全町クリーン作戦

### 4 成果と課題

- 成果
  - 生徒は、専門家の指導による系統的なコミュニケーションスキル育成プログラムの積み重ねにより、各種ボランティア活動や他者との交流に積極的に参加したり、初対面の人に対しても物おじせずに話し掛けたりすることができるようになるなど、人間関係を築く力が向上した。
  - 生徒はコミュニケーションスキルが身に付いてきたことにより、学校生活における自信が一段と高まり、学習に対する意欲的な姿勢が見られるようになった。
  - 教員は、専門家の継続的なアドバイスや各種調査の結果を踏まえた校内研修により、生徒の発達課題に応じたメンタルヘルス教育や教育相談を必要とする生徒を効果的に支援するための指導力の向上を図ることができた。
  - 年間指導計画の作成や、全職員による集団カウンセリングの参観などにより、職員の相互理解を深め、「心の教育」に組織的に取り組むことができた。
- 課題
  - ボランティア活動は、「心の教育」を通して学んだコミュニケーションスキルを実践し向上させる良い機会であるが、教育課程内で無理なく行うためには内容や時間を一層工夫する必要がある。
  - ボランティア活動を「心の教育」による生徒の成長を評価する場として位置付ける必要がある。
  - 遠隔での集団カウンセリングを実施する際には、事前にコミュニケーションスキル育成コーディネーターとの綿密な打ち合わせや連携が必要不可欠であり、より計画的に行う必要がある。